

MOL

商船三井
2021.NOV
証券コード：9104

INTERIM REPORT

— 特集 —

脱炭素化への針路 2050年に ネットゼロ・エミッション

モーリシャスの環境回復・地域社会へ貢献
商船三井フェリーが創立20周年
車いすラグビー日本代表として活躍するアスリート社員
オンライン職業体験に小中学生130人以上が参加



2021年度 中間報告書
〈2021.4.1～2021.9.30〉

株主の皆様へ

株主の皆様には
日頃より格別のご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。



代表取締役
社長執行役員 **橋本 剛**

2021年度中間期（第2四半期累計期間）の連結業績をご報告するにあたり、ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が世界の様々な経済活動に影響を与える不確実な事業環境が継続していますが、コンテナ船事業における旺盛な輸送需要と堅調な運賃市況、またドライバルク事業における船腹需給引き締めによる市況改善が、油送船事業の市況低迷、感染拡大に伴う客船の一部運航中止、フェリー・内航RORO船事業の旅客需要減少などによる減益を大幅に上回り、2021年度通期経常利益の見通しを4,800億円に上方修正いたしました。

当社は、2021年4月に商船三井グループの企業理念、グループビジョン、価値観・行動規範「MOL CHARTS」を改定、6月には「環境ビジョン2.1」を発表し、温室効果ガスの排出量について2050年までにネットゼロ・エミッションを達成する目標を掲げました。現経営計画「ローリングプラン2021」では、「地域戦略」×「環境戦略」を掲げ、2021年上期には、LNG燃料船の建造契約の締結、アンモニア輸送事業への再参入など、経営計画に基づく施策を着実に実行しました。引き続き当社グループの強みを持つ分野への重点投資を継続し、中長期的な企業価値向上とサステナブルな成長を図ってまいります。

株主の皆様には引き続きご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

コンテナ船事業の市況高騰の要因

コンテナ船事業は、2018年4月に営業を開始した邦船3社によるコンテナ船事業統合会社 Ocean Network Express (ONE) 社により事業を展開しております。

新型コロナウイルスの流行による巣ごもり需要の急拡大に加え、コロナ禍の終息を見据えた各国の経済復興対策が新たな物流需要を引き起こしており、需要が旺盛な状態が続いています。また、北米など主要港での港湾混雑や内陸輸送を含めた物流全般の混乱により、船腹供給量が減少しています。

こうした需給環境によりコンテナ運賃は高止まりを続けていますが、これらの要因による好業績は一過性のものと認識しており、物流全体の正常化により、需要・供給ともに徐々にバランスが取れていくものと考えております。

業績推移

※単位：億円、▲は損失

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期中間	2022年3月期通期(予想)
連結					
売上高	12,340	11,554	9,914	5,970	12,200
営業損益	377	237	▲53	203	450
事業損益(注)	299	397	1,276	2,640	4,650
経常損益	385	550	1,336	2,718	4,800
親会社株主に帰属する当期(四半期)純損益	268	326	900	2,748	4,800
為替レート(期中平均)	¥110.63/\$	¥109.28/\$	¥105.95/\$	¥109.41/\$	¥110.00/\$ (下期前提)
船舶燃料油単価(期中平均)	\$456/MT	\$467/MT	\$355/MT	\$514/MT	\$500/MT(HSFO) \$600/MT(VLSFO) (下期前提)
配当金	45円/株	65円/株	150円/株	300円/株	800円/株

(注) 営業損益+持分法投資損益

セグメント別

※単位：億円、▲は損失

セグメント	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期中間	売上高構成比
ドライバルク事業 ▶ドライバルク船 (石炭船除く)	売上高 2,911 経常損益 219	2,771 120	2,220 ▲42	1,687 143	28.3%
エネルギー・海洋事業 ▶油送船 ▶石炭船 ▶LNG船 ▶海洋事業 ▶風力エネルギー	売上高 2,809 経常損益 211	2,893 254	2,788 297	1,426 109	23.9%
製品輸送事業 ▶自動車船 ▶コンテナ船 ▶フェリー・ 内航RORO船	売上高 5,451 経常損益 ▲122	4,754 67	3,951 1,026	2,382 2,413	39.9%
うち コンテナ船 事業	売上高 2,769 経常損益 ▲143	2,264 41	2,194 1,171	1,280 2,398	
関連事業 ▶不動産 ▶曳船 ▶商社 ▶客船等	売上高 1,011 経常損益 129	965 123	789 94	401 43	6.7%
その他	売上高 156 経常損益 25	168 34	163 26	73 18	
調整(消去・全社)	売上高 — 経常損益 ▲77	— ▲49	— ▲66	— ▲9	1.2%

脱炭素化への針路 2050年にネットゼロ・エミッション

全文はWebで
ご覧ください▶



当社は今年6月、持続可能な社会を実現するための道標として、「商船三井グループ 環境ビジョン 2.1」を策定しました。気候変動対策、海洋環境保全、生物多様性保護、大気汚染防止という環境課題の解決に向けた取り組みを示したものです。中でも、喫緊の課題として対応が急がれる気候変動対策を中心に据え、「2050年のネットゼロ・エミッション」を邦船社として初めて表明しました。

より高い目標

世の中の気候変動問題への関心の高まりや技術革新の動向を踏まえ、昨年6月に発表した「商船三井グループ 環境ビジョン2.0」よりも高い目標を掲げ、環境課題への取り組みを加速させます。

従来のビジョンからの大きな変更点は、温室効果ガス（GHG）のネットゼロ・エミッションの実現時期を「今世紀中のできる限り早期」から「2050年」へと前倒したことです。また、ネットゼロ・エミッション外航船の運航開始の目標年限を「2030年」から「2020年代中」としました。

35年に110隻をネットゼロ・エミッションに

このような目標を達成するため「クリーン代替燃料の導入」などを進めます。現在、当社が運航する船舶の燃料は石油が大半ですが、これをできる限りクリーンなものに変えていきます。

まずは、LNG（液化天然ガス）を燃料とする船舶の導入を進めます。2030年に当社の運航船約800



TOTAL向けLNGバンカリング船

©Port of Rotterdam

■中長期目標

1. 2020年代中にネットゼロ・エミッション外航船の運航を開始します
2. 2035年までに輸送におけるGHG排出原単位を約45%削減します（2019年比）
3. 2050年までにグループ全体でのネットゼロ・エミッション達成を目指します

■中長期目標達成に向けた五つの戦略

〈自社からのGHG排出削減に向けた取り組み〉

- 戦略1. クリーン代替燃料の導入
- 戦略2. さらなる省エネ技術の導入
- 戦略3. 効率運航の深度化
- 戦略4. ネットゼロを可能にするビジネスモデル構築

〈社会のGHG排出削減に貢献する取り組み〉

- 戦略5. グループ総力を挙げた低・脱炭素事業拡大

隻のうち、約90隻をLNG燃料船（LNG輸送船を除く数）とすることを想定しています。

LNGは石油と比べて環境にやさしい燃料ですが、GHGの排出を完全になくすことはできません。そこで、今注目しているのがアンモニアや水素など、燃焼時にGHGを一切排出しない新たな燃料です。ネットゼロ・エミッション燃料として、主にアンモニアを想定していますが、このほかにも様々な燃料に注目しています。ネットゼロ・エミッション外航船を2035年に約110隻運航する計画です。

クリーンエネルギーをつくる・届ける・活かす

当社グループからのGHG排出削減に取り組むのはもちろんですが、事業を通じて社会のGHG排出削減にも貢献し、「グループ総力を挙げた低・脱炭素事業拡大」を目指します。クリーンエネルギーを生み出し、届け、活かすというサプライチェーンのあらゆる部分で事業を展開し、世界の低炭素・脱炭素化を促すとともに、クリーンエネルギーの新たな需要を創出していきます。

「商船三井グループ 環境ビジョン2.1」に示した目標を達成することは決して容易ではありませんが、ステークホルダーの皆様とともに全力で取り組んでまいります。

モーリシャスの環境回復・ 地域社会へ貢献

詳細は
こちら▶



当社がチャーターしていたばら積み貨物船「WAKASHIO」がインド洋の島国、モーリシャス共和国沖で昨年7月25日に座礁し、同8月6日に燃料油が流出した事故から1年以上が経過しました。当社は、本船を保有する船主との間で備船契約を結び本船を利用していた関係者として、事故直後より油濁の早期除去に注力してきました。その後も、駐在員事務所の開設や、「MOL チャリタブルトラスト」（地域社会・市民生活へのきめ細かな支援活動を機動的にサポートすることを目的として設立した基金）への3億円（予定）の拠出などを通して、環境回復や地域社会への貢献に中長期的に取り組んでいます。



MOL チャリタブルトラスト現地運営委員

商船三井フェリーが創立20周年 環境にやさしい物流を提供

詳細は
こちら▶



当社グループのフェリー運航会社である商船三井フェリーが、今年7月1日に創立20周年を迎えました。現在、茨城県・大洗～北海道・苫小牧間で大型の長距離フェリーを毎日運航し、首都圏と北海道を結ぶ旅客輸送並びに物流において重要な役割を果たしています。また、東京と九州を結ぶRORO船（注）サービスではトラック・トレーラーなど車両輸送に従事し、首都圏のみならず九州の地域経済発展の一翼を担っています。これからも、環境にやさしい輸送手段である船舶をより安全に運航する取り組みを進め、旅客や貨物を長距離でより確実に運ぶ需要に応えていきます。



さんふらわあ ぷらの

（注）RORO船：船に備えたランプウェイと呼ばれる通路から自走で乗り込んだ各種車両を、そのまま運搬する船舶のこと。

車いすラグビー日本代表として 活躍するアスリート社員

詳細は
こちら▶



車いすラグビーのアスリート、倉橋香衣は当社のダイバーシティを象徴する社員です。先の大会では日本代表として活躍し、銅メダルを獲得しました。倉橋の明るく前向きに競技や仕事に向き合う姿は、当社社員に多くの学びと勇気を与え、これまで気付かなかった新しい視点を提供してくれます。また、競技を通じた嬉しいニュースは社員に一体感をもたらしました。当社は今後も倉橋のアスリート活動を支えていきます。



2021年4月にBLITZよりAXEに移籍済

オンライン職業体験に 小中学生130人以上が参加

詳細は
こちら▶



日本初のオンライン職業体験イベント「海運業編～船が支える豊かな暮らし～」を、小中学生を対象に8月に開催しました。商船三井小中学生アンバサダーを務める群馬県在住の萩原一颯さん、竜誠さん兄弟が主催するいぶりゅう学園と共催したもので、船員の仕事の魅力や海運業が果たす役割、安全運航や地球環境を守るため当社が実施する様々な取り組みを紹介しました。国内外から参加した130人以上の子どもたちは、チャット機能などを通じて多くの質問、驚きや関心の声を寄せるとともに、自ら考案した「環境に優しい船の絵」を数多く披露してくれました。



海上で高速衛星通信を活用、フェリーで実証実験

当社は、通信事業大手のソフトバンク株式会社、船舶のデジタル化などに取り組む株式会社 e5 ラボ（当社などが出資）とともに、海上における次世代高速衛星通信サービスの活用の共同検討を始めました。ソフトバンクが協業する英国の衛星通信会社ワンウェブ社（OneWeb Ltd.）が提供する高速通信サービスを活用して、船舶へのブロードバンド通信の導入と、デジタルツールを用いて、より安全・安心で、効率的な輸送を実現する方法を検討していきます。

海上は、私たちが生活する陸上と比べ、通信環境が著しく劣っています。ワンウェブ社は海上における高速通信サービスを手頃な価格で提供するために、低軌道衛星や地上局の整備を進めています。

ワンウェブ社のサービスを用いることで、海上の通信速度はこれまでと比べて大幅に改善する見通しです。海上で高速通信を利用できれば、船と陸の間で大容量のデータをやり取りできるようになり、船舶運航を高度化し、より安全・安心な輸送サービスを提供できると期待しています。

今回の共同検討の一環として、来年4月から、当社グループ



OneWebを活用した海上トライアルの実施イメージ

が運航するフェリーにワンウェブ社の衛星アンテナを実際に設置し、日本国内で海上における衛星通信サービスの実証実験を行う計画です。今後、旅客サービスの改善や、乗組員の福利厚生にもつなげていきたいと考えています。

そのほかのニュースにつきましては、ウェブサイトよりご覧ください。



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月	郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	毎年3月31日	電話照会先	0120-782-031（フリーダイヤル）
基準日	期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日	インターネットホームページ URL	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
上場金融商品取引所	東京証券取引所	公告の方法	当社ホームページに掲載します。 https://www.mol.co.jp/ ただし、事故、その他やむを得ない事由によりホームページに掲載できない場合は、日本経済新聞に掲載します。

cover photo



LNG 燃料フェリー
さんばらわあ くれない



液化CO₂輸送船



硬翼帆式風力推進装置
ウインドチャレンジャー